

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370102156
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	くまもとケアセンターそよ風
訪問調査日	平成 20 年 3 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風		
所在地 (電話番号)	熊本市山ノ内3-9-27 (電話)096-331-3711		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	3月26日

【情報提供票より】(20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.4

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <input checked="" type="radio"/> 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	19,000 円	
敷金	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)		<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 無 期間4年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	73 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石原・伊牟田内科医院	森永歯科医院
---------	------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2ユニットの特徴を活かし、利用者の個性を大切に活動がなされています。そよ風便りも発行され、組織的に体制作りはできています。利用者の個別計画、実践、評価もなされています。各部屋にその人らしい暮らしがありました。又、各部屋も個人の好みを大切に写真や花鉢が飾られ、日当たりも良好です。立地条件が道路添いのため、外出支援に工夫が必要です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題はとくになかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で評価したので関心が高まり、事業所の地域での役割が認識できた。又、振り返りができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	1年間に2回開催、運営推進会議のメンバーも不確実なので報告程度、今後運営推進会議を活用し、地域性を高める取り組みを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱はあるが意見、苦情は面会時に直接対応されています。預かり金の収支報告は細かくされています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域性が薄い中老人会、地域のイベント、回覧板での地域行事に、利用者、スタッフが参加し地域作りの連携に努力されていました。地域の方々のボランティア活動を積極的に受け入れられることを期待します。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人組織の理念を元に、グループホーム独自の理念を職員に公募され、スタッフ・利用者で話し合いの結果今の理念に繋がっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・居間に理念の掲示あり。家族会で理念について話したり、併設事業所共同でのそよ風便りに載ることもある。毎日の朝礼で法人の理念の唱和はあっているようだが、グループホームの理念は掲示のみ。	○	グループホーム独自の事業所便りがあるといいですね。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事毎に老人会や地域の方にイベント的な取り組みはされている。回覧板でくる地域の行事等には利用者・スタッフ共とも参加されている。地域のふれあいサロンからバイタル測定の依頼があり、デイの協力を得ながら対応されている。	○	地域性が得にくい中、努力されている様子が伺えます。今後も一層の取り組みを期待します。地域にどう対応しているか悩みもあるようですが、声掛けを続けて行くことが大切です。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をスタッフ全員で取り組まれている。	○	自分たちの認識と今後の取り組みを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間に2回開催されている。市や地域住民等の参加がない。	○	運営推進会議メンバーへの委嘱等を行い開催日を年間予定に取り込み2ヶ月に1会開催する必要があります。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管轄保健センターへの相談やアドバイスを受けることはあっている。地域包括支援センターとの連携はない。	○	運営推進会議への呼びかけがまず必要です。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預かり金の収支チェックは細やかにされ、月1回家族に確認を受けている。電話での随時の連絡、面会率も高いため、その時に報告されている。預かり金の収支表を希望の家族には渡している。	○	領収書・請求書管理は細かく管理されているにもかかわらずそれが家族に理解されていないようです。理解され納得される取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが入ったことはないためか、用紙もない。家族からは面会時随時意見を聞くようにはされている。	○	意見が出る工夫をもっと検討されたらいいですね。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	直近1年間に一人、その前の2～3年前は法人内の事業所内異動があったが、転勤の職員との交流は、職員・利用者とも続いている。退職者からの苦情を、次の改善にいかすようにされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会を2ヶ月に1回担当者を決め開催されている。職員自らの企画のため、アロマや着付け、バイタルチェック等の研修がケアに活かされている。外部研修はセンター長・管理者が必要と思う研修が薦められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回ブロック会があり参加されているが、交流は少ない。グループ企業があり、その中で交換研修等が行われている。	○	大きな組織のメリットを十分生かされているようですが、地域の同事業所との交流機会を増やされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を前提に最大7日間の体験入所を有料で受けられる。入居までの1ヶ月間は訪問等を行い、顔見知りになるようにされている。馴染みの関係を作るために関わりを多く持ち、利用者同志が人間関係を作るよう職員の配慮で場の環境が悪くならないよう、利用者のイライラ感が増さないようにされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スイカの時期の漬け物の作り方、お手玉作り等のなかで、もったいない精神を教えてもらうことが多く、毎日新しい発見に感動を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の動きや、利用者同士の会話、職員との会話等から、職員間で共有し意向を確認するようにされている。家族からは昔の話し等聞き取りがされている。	○	法人で作られている自分史ノートを大いに利用されることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体の記録等から意向や問題点を把握され受持者が原案を作り、作成担当者と作成した介護計画を家族に説明されている。月1回のグループホーム会議で問題点をあげ意見を聞くようにされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	追加プランとして随時そして定期見直しは3ヶ月～6ヶ月に行うようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の突発的な災害時は受け入れができるよう努力されている。家族の協力を得ながら自宅への外出支援等が行われている。	○	家族や地域へ認知症の理解や対応方法を事業所の積極的な関わりを持つことで、外出から外泊支援、自宅への退所へ繋がっていくことが出来ることを期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回連携医の往診があつている。また、家族への受診状況の説明はされている。内科医関係は入居時に今迄のかかりつけ医か協力医かどちらかにされるよう説明がおこなわれ、認知症専門医にかかりつけておられる方はそのまま継続されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制はとられていない。事業所方針として終末期の対応はしていない。	○	家族や本人の要望を十分に把握し、終末期の配慮や体制を考慮され、終末期についてその過程を学ばれ、職員全員の方針を共有される事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は一人一人できるよう配慮されている。個人カルテは鍵付きの棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣がまばらな利用者の中で一人一人の生活ペースを大切にしながら、共同生活のペースを乱さないよう取り組まれている。また、日勤の業務配分は決めてなく、スタッフでその日の状態をみて、1日の流れの中でその人のリズムで対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人で昼食は作られてくるが、朝食・夕食はグループホーム内で作られている。配食の手伝いや、食材の準備などスタッフ指導のもと行われている。食器類等工夫しながら用意されている		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴日は設定されていない。入浴の声掛けはされているが、拒否が続いた場合等の積極的な働きかけはされていない。拒否が続くときなど、温泉気分で併設の通所介護の浴室を利用されたり、近くの温泉施設を利用されることもある。	○	認知症の入浴支援方法を検討され、取り組まれることを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外食を希望された時などは近所の店に出かけることもあり、イベント行事をきっかけに楽しみごとの見出しが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日決められた外出はないが、近くのホームセンターや喫茶店への散歩や食事支援が随時行われている。	○	立地条件から日常的な外出支援が困難な事と思いますが、運動機能向上や精神活動の為外出支援を工夫してください。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はない。冷暖房が必要な時は、2階入り口の各ユニットの扉がしめられている。エレベーターがあるため、日曜日は1階玄関の鍵がかけられている。徘徊が強いときなど、センサーマットや、ドアの鈴などで対応されることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回職員・利用者による自主訓練が行われ、1年に1回消防訓練が行われている。火災時の一時避難の場所はベランダと決めてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶の時間を設け必要な水分摂取ができるようにされている。食事量チェックや、体重チェックが行われ、食事量が減っているときはかかりつけ医とも相談され、栄養補助食品を利用されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階エレベーター前の各ユニットの出入り口は担当者が決められ、季節感や、生活感があるように意識して飾り付けがされている。居間もソファが置かれ寄り添っておられる利用者の姿や、誕生会の写真等の飾り付けがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口は一人一人の飾り表札がわかりやすく設置されている。家族の協力を得ながら我が家作りに努力され、暖かい雰囲気作りに工夫されている。	○	一人で居る時も楽しい部屋作りをと努力され様々な飾り付けがされているようです。華美になるかならないかその見極めが難しいところですね。一層の配慮を期待します。